



① 美しく植栽された市営住宅の一角 ② 鮮やかな花々が迎える自宅から道路までのアプローチ ③ 展示会もオープンガーデンと同時開催 ④ 手作りのウエルカムボードがお出迎え ⑤ 庭は隅々まで色とりどりの花でいっぱい ⑥ 千恵美さんの作品はまるで絵画のよう ⑦ 小学生からの感謝の言葉は宝物 ⑧ 夫婦で仲良く花の手入れ ※花の写真は令和3年4月に撮影



# 人輝子

自然の花色をそのままに  
美しきアート  
「押し花」の世界――。

## 花で地域を活性化

JR松橋駅北側の御領踏切の近く。広大な農地が続く場所に千恵美さんのアトリエがある。春には、農地内の仮駐車場に一つ、道路の曲がり角に一つ、自宅の入り口にまた一つと、アトリエに近づくにつれ段々と花が

増え、到着すると数万本もの花が迎えてくれる。彩り豊かな庭園で開かれるオープンガーデン作品展には、県内外から千人近くが訪れる。

## 押し花との出会い

千恵美さんが押し花に出会う

たのは、36年前に開かれた全国都市緑化フェア「クマモトグリーンピック1986」の世界の押し花展。作品の美しさに心を奪われ、チャレンジへの想いを募らせた。時が来たのは2002年。公民館で受講できることを知り、習い始めた。す

校や障害者支援施設、街なか図書館から講師の依頼が届くなど、活動の場は広がっていった。「皆さんの喜ぶ顔を見るのがうれしい。早くコロナが収まり、前のように活動したいですね。」と千恵美さんは笑顔で語る。

## 夫婦の絆がつくり出す美しい作品

21歳で6歳年上の正則さんと結婚。直後に正則さんの慢性腎臓病が発覚した。長い期間、食事療法で健康を維持していたがやがて症状が悪化。5年前に医師から人工透析と生体腎移植の二つの選択肢を伝えられた。そのとき二人は初めて夫婦間の腎移植も可能であることを知る。千恵美さんは、夫に今まで通り過ごしてほしいとの一心で腎移植を即断した。「妻には感謝しています。毎日の薬と夫婦そろっての定期検診を欠かさず、二人そろって元気に過ごしたいです。」と正則さんはほほ笑む。元々、花好きな夫婦。正則さんが花を育て、千恵美さんが作品にするというスタイルは自然



満開に咲く花々が地域を彩る

## 津志田千恵美 Tsushida Chiemi

昭和25年生まれ 56歳で押し花インストラクターの資格を取得。2007年に押し花教室を開講。現在の生徒数は22人。

オープンガーデン作品展  
4月9日㊥~13日㊦ 10時~17時  
園 津志田押し花教室  
不知火町御領456-1  
☎ 090-9485-5636



今年金婚を迎える津志田夫妻

「花の種類によっては毎年土を変えろ工夫をしています。」と正則さん。長年の経験で培われたノウハウが、千恵美さんの活動を支える。  
「主人が育てた花を押し花にして、いつも眺められるってすてきでしょ(笑)。」と千恵美さん。二人の趣味とお互いの思いやりが合わさって、これからも美しい作品が生み出されていく。